

科目コード	R24227	科目名	内部障害理学療法治療学				
履修区分	必修	開講期	3年前期	授業回数	15回	単位数	1単位
担当者	馬屋原 康高						
授業の概要	呼吸器疾患、がんなど内部疾患の病態と基本的な理学療法評価および治療（介入方法）について学修する。また、症例を通して病態に適應する理学療法評価項目の立案やICFに沿った障害像の構築過程を問題解決型学習（PBL）形式で学修する。また、講義では各回で設定された到達目標の内容について、自らが学んだ内容や疑問点・課題を振り返り主体的な学びにつなげる。						
DPとの関連	慈愛ある豊かな人間性と人間を広い領域から捉える教養を身につけている						
	理学療法・作業療法を実践するための専門的知識・技術を身につけている						
	生命の尊厳や人間尊重を基本とする高い倫理観を持ち、自律して行動できる思考力や判断力を身につけている						
	理学療法士・作業療法士として課題を解決しようとする情熱と創意を持っている						
	地域社会・国際社会の一員として、専門職種と協働できる専門知識、コミュニケーション能力を身につけている						
2025年度以降の学則適用用のDPとの関連を記載しています。2024年度以前の学則適用者は項目順や表現が異なりますので注意してください。 DP：ディプロマ・ポリシー（卒業認定・学位授与の方針）= 卒業までに身に付けるべき資質・能力							
到達目標	COPDの基本的な理学療法評価の項目を5つ以上列挙することができる。 COPDの基本的な理学療法プログラムや生活指導方法について5つ以上列挙することができる。 がんの病期に適應した基本的な理学療法の内容を説明できる。 吸引の適應やリスクについて説明できる。						
履修上の注意事項	<ul style="list-style-type: none"> <li>・出席確認はC-learningで行います。</li> <li>・講義を欠席した場合、確認テストや課題が実施できないため評価点に影響することを予めご承知おきください。</li> <li>・スマートフォン等のカメラ機能を使用した黒板やスライドの撮影は厳禁とします。</li> </ul>						
授業計画	回数	講義内容【担当教員】				事前・事後学修	
	1	オリエンテーション / 内部障害の理学療法とは				事後学修（1時間）	
	2	呼吸器疾患評価のための基礎知識				事後学修（1時間）	
	3	呼吸器疾患における血液データの特徴とその解釈				事後学修（1時間）	
	4	呼吸器疾患における画像所見の特徴とその解釈				事後学修（1時間）	
	5	COPDの呼吸理学療法 評価（理学所見）				事後学修（1時間）	
	6	COPDの呼吸理学療法 運動療法				事後学修（1時間）	
	7	COPDの呼吸理学療法 生活指導				事後学修（1時間）	
	8	確認テスト / COPD症例PBL				事前学習として第1回から第7回までの復習（1時間）	
	9	急性期の呼吸理学療法 評価				事後学修（1時間）	
	10	急性期の呼吸理学療法 治療手技・運動療法				事後学修（1時間）	
	11	神経筋疾患の呼吸理学療法 基本的評価および介入方法				事後学修（1時間）	
	12	重症心身障がいおよびNICUでの呼吸理学療法				事後学修（1時間）	
	13	摂食嚥下・誤嚥性肺炎の予防的呼吸理学療法				事後学修（1時間）	
	14	がんのリハビリテーション 病態の理解と評価				事後学修（1時間）	
	15	がんのリハビリテーション 病期に応じた理学療法介入方法（PBL）				事後学修（1時間）	
成績評価方法	期末試験（70%）および講義内の確認テストや課題（30%）の点数によって評価する。 期末試験は、再試験までとする。						
教科書	書名・著者（出版社）					ISBNコード	
	PT・OT入門 イラストでわかる内部障害 上杉雅之 監修（医歯薬出版）					978-4-263-26611-3	
参考書							
教員からのメッセージ	本講義を受講するにあたり、生理学、一般臨床医学、理学療法評価学、演習を復習して受講してください。						
教員との連絡方法	馬屋原までお問い合わせください。 西風新都キャンパス、研究棟4階401号室 メールアドレス：uma@hcu.ac.jp						
実務経験のある教員	急性期病院での診療（内部障害、脳卒中、整形疾患、神経筋疾患）、小児病院での診療（発達外来、重症心身障害、筋ジストロフィー、補装具外来、新生児集中治療室）、特別支援学校勤務 認定理学療法士（呼吸）、呼吸ケア指導士、3学会合同呼吸療法認定士 呼吸理学療法およびがん患者に対する理学療法の経験を有する教員が講義いたします。						